キッセイ薬品は世界の人々の健康に貢献する、創薬研究開発型企業です。

◎本　社
〒399-8710 長野県松本市芳野19番48号　TEL:0263-25-9081
◎東京本社
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目8番9号　TEL:03-3279-2761
〒112-0002 東京都文京区小石川3丁目1番3号　TEL:03-5684-3530

KISSEI
キッセイ薬品工業株式会社
https://www.kissei.co.jp

命のために、
できること
すべてを。

大日本住友製薬
Innovation today, healthier tomorrows

守りたい今があるから　製薬産業

持続可能な社会の実現に貢献

ごあいさつ

日本製薬団体連合会
会長
手代木　功

今般、国内外で新型コロナウイルス感染症（COVID−19）に罹患され、亡くなられた方々に対し哀悼よりお悔やみ申し上げますとともに、感染症に立ち向かうため、最前線の現場で日々懸命に努力されている全ての医療従事者の皆さまに心より敬意と感謝の意を表します。

COVID−19は全世界に甚大な経済損失をもたらし、各国への巨額の財政負担、外資規制・自国優先などの保護主義の高まり、米中対立の深刻化など、世界情勢に大きな影響を与えています。

また、新たな感染症の脅威、リモートワークをはじめとする就労形態や生活様式の変化に伴うデジタル化の進展、安全・安心な日常生活の大切さの再認識などを通じ、改めて科学技術の進歩、医療・公衆衛生の重要性、それらの社会的価値が認識されたものと思われます。

医療の一端を担う医薬品産業としましても、政府の支援や企業間の相互協力のもと生命関連商品である医薬品の安定供給を断絶させない取り組みを継続するとともに、COVID−19に対して既存薬の活用や新規治療薬・ワクチンの創製に向けた研究開発を精力的に進めております。

医薬品産業は、未だ有効な治療方法がない疾病（アンメット・メディカル・ニーズ）に対する医薬品の創出のみならず、予防・先制医療といった分野にも取り組んできております。その研究開発は科学技術の進歩によって再生医療、遺伝子治療、中分子医薬品などの新しいモダリティ（創薬手法）への変化や、ゲノム・生体分子情報、病態や診療記録情報といった健康医療ビッグデータやAI（人工知能）を活用したデータ駆動型へと大きく変化しています。

このように人々の価値観が大きく変わるニューノーマルの中で、医薬品業界としてソサエティー5・0時代の持続可能な社会の実現に貢献していく所存です。当連合会としましては、引き続きイノベーション創出を効率的かつ迅速に行うための環境整備として、イノベーションの価値を適正に評価する薬価制度の構築、研究開発税制の拡充、セルフメディケーションの推進および製薬産業の国際化などに取り組んでまいります。

新型コロナ感染拡大
治療薬開発が急務

国内で初めて新型コロナウイルス感染症患者が確認されて約半年が過ぎた。しかしいまだ感染拡大は続き、全世界の感染者は1400万人にのぼる。日本では5月に緊急事態宣言が解除されるも、再び感染者数は増加に転じた。第1波の再燃や第2波と呼ばれる現状をいかに克服していくのか、政府は対応が求められる。治療薬や検査体制の整備など、感染拡大を防ぐための環境作りが不可欠だ。

新型コロナウイルス治療薬の審査を条件付きで大幅省略する通知を出した厚労省

日本ではこれまでに2万6000人以上の感染者が報告されている。東京都を中心に感染者が増え、周辺県へ感染が広がっている状況だ。治療法を確立して医療機関の逼迫を回避するためにも、治療薬の開発が急務だ。

国内初の新型コロナ感染症治療薬として承認されたのは米ギリアド・サイエンシズが開発した「レムデシビル」だ。厚生労働省は5月、海外での承認実績をもとに国内での使用を認める「特例承認」という仕組みを適用し、レムデシビルを承認した。

特例承認とは感染症などによる健康被害の拡大を防止するために、すでに海外で使用が認められた医薬品を対象に、短い審査で国内使用を許可する制度だ。米国食品医薬品局（FDA）がレムデシビルの緊急時使用許可を出したことを受け、日本でも特例承認したり、臨床試験で新型コロナへの有効性が認められれば承認申請ができるため、製薬各社が臨床試験を始めた。日本では、富士フイルム富山化学の抗インフルエンザ薬「アビガン」や、中外製薬の関節リウマチ治療薬「アクテムラ」などが新型コロナ感染症の治療に効果が期待され、臨床試験が実施されている。

新型コロナウイルス感染者が増えるにつれ観光業を中心に大きな影響が出ている

企業のこうした開発を後押しするように、厚労省は新型コロナ感染症の治療薬の審査を条件付きで大幅に省略する通知を出した。一定の条件を満たす臨床研究を対象に、研究結果を基に承認審査を行うというものだ。通常の医薬品の承認に必要な臨床試験の結果が出る前に承認が可能となる。こうした仕組みにより、新型コロナの治療薬やワクチンの審査を迅速化し、国内で使用可能な薬を増やす姿勢だ。

既存薬の転用、臨床へ
検査体制拡充も重要

感染拡大を食い止めるには、検査体制の拡充も重要だ。新型コロナでは主にPCR検査が使われている。採取した検体から新型コロナの遺伝子を検出し、感染の有無を判断する検査手法だ。発熱やだるさといった症状と、海外渡航歴や感染者との接触歴などを保健所が調査し、PCR検査を行う。第1波では検査件数の少なさが指摘され、感染者の隔離が進まなかったことが感染拡大の一因となった。

新型コロナ感染拡大を食い止めるために、検査体制の強化が進んだ。東京都医師会は新型コロナ感染が疑われる患者に対し、かかりつけ医の判断で検査を行うことが可能な「PCRセンター」を設置した。さらに唾液を使ったPCR検査も可能になる。感染者を早期に見つけ、隔離などの対応につなげることができる。

現在、新型コロナ感染者のうち感染経路不明者が増加しており、接触歴など検査の必要性を判断できない状況だ。感染者を多く拾い上げて隔離できなければ、やがて高齢者などの重症化リスクが高い人への感染につながってしまう。

第1波で構築した体制を効率的に活用し、再流行を最小限に抑えることが求められる。

イノベーションに情熱を。
ひとに思いやりを。

Daiichi-Sankyo
第一三共株式会社

Better Health, Brighter Future
タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。

タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、人々の人生を変えうる
革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

タケダはこれからも、グローバルなバイオ医薬品のリーディングカンパニーとして
より健やかで輝かしい未来を、世界中の人々へお届けするために挑戦し続けます。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp

Takeda